

コラム:「大義なき我がまま解散」に「1票」で反撃を

—「棄権」が、一番「危険」—

○年末の解散総選挙。安倍首相は「アベノミクス解散」と称しているが、とんでもない。

○1つ目は、「我がまま（個略）解散」。今の時期の解散が、議席減を最小に抑えられる。また、党内反対派を押さえ来年九月の自民党総裁選が有利になるという個人的な思惑。

○2つ目は、「疑惑・失敗隠し解散」。政治とカネによる2名の閣僚辞任。それに続く辞任予備群への追求封じ込め。沖縄知事選挙の敗北隠し。

○3つ目は、「悪政先送り解散」あるいは、「ぼろが出る前解散」。株価が下がる前。原発再稼働前。集团的自衛権の個別法具体化前。TPP参加前。国民から批判を受けそうな課題を先送りし、ぼろが出る（支持率が更に下がる）前に選挙をやる。

○4つ目は、「幻想つなぎとめ選挙」、「争点隠し選挙」。消費増税を先送りし、「アベノミクスは道半ば」、「アベノミクスをやったからこれくらいで済んだ」「成果はこれから」というごまかし。地方創生、女性の活躍、消費税の軽減税率での新たな「幻想」拡散による票のかすめ取り。

○この選挙の核心は、「自民党に勝たせ過ぎた」の是正。自民党が減ることは確実。それをどこまで減らせるかが、「安倍内閣の暴走」に歯止めをかけるポイント。国民が攻めている。「棄権」が一番「危険」だ。